



アンセル「ウイスラツシユさん、そ
リラツクスしてくださ
ウイスラツシユ「えっ!? え、ええそ

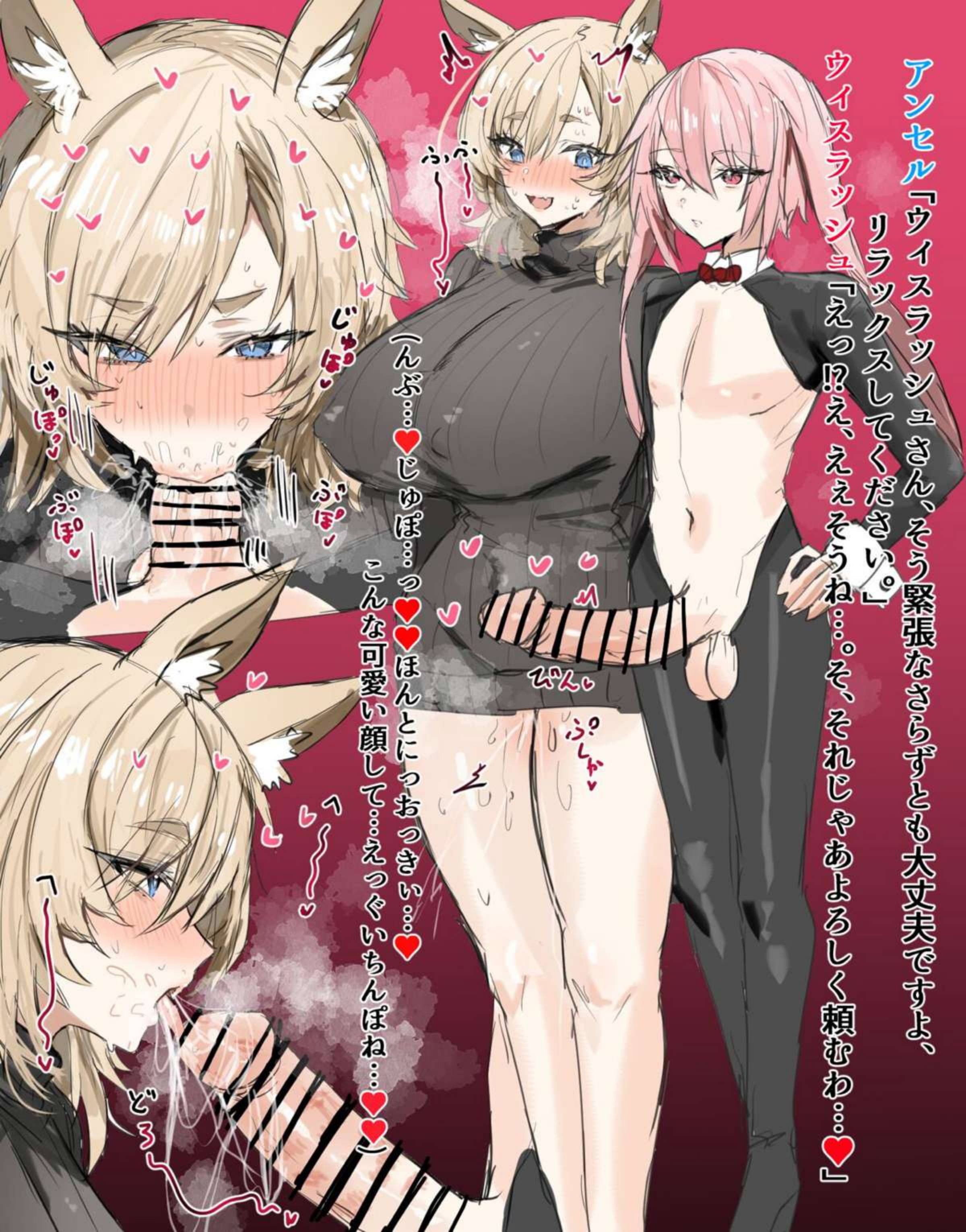
（んぶ…❤️じゅぽ

じゅぽ

じゅぽ

じゅぽ

じゅぽ



アンセル「ウイスラツシユさん、そう緊張なさらずとも大丈夫ですよ、

リラックスしてください。」

ウイスラツシユ「えっ!? え、ええそうね…。そ、それじゃあよろしく頼むわ…。♡」

（んぶ…♡じゅぽ…♡♡ほんといっおっきい…♡♡
こんな可愛い顔して…えっぐいちんぽね…♡♡）

じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ

じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ

ふふ
ふふ
ふふ

びん
ぶし
ぶし

どろ
どろ
どろ

ウイスラツシユ「おっ♡おほッ♡♡♡んおッ♡すつ♡♡イケメンちゃんぽ♡♡
子宮の奥までずんずんッ♡くる♡♡♡」

アンセル「ウイスラツシユさん、声をもう少し抑えてください…個室では
ありますが、完全に防音ではないので。あ、そろそろ出しますね。」



ウイスラツシユ「ひいっ♡♡♡出てる♡♡♡イケメンザーメン出てる♡♡♡
孕むッ♡♡♡ごめんなさいドクター♡♡♡おっ♡♡♡」

ぐわっ♡♡♡
おっ♡♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡



ウタゲ「いいーいい♡ピース♡♡ほらーアンセルくんも入って入って♡♡」

アンセル「あの…ウタゲさん…お時間が…」

ウタゲ「ほんとおつきいね♡♡皆にも後で見せてあげよ♡♡」

アンセル「いい加減にしてください。」

ウタゲ「んぎゅ♡♡おっ♡♡ぎよ♡♡めんなさ♡♡」

めちゅい

とろ

びゅびゅ

びゅびゅ

びゅびゅ

びゅびゅ

びゅびゅ

びゅびゅ

びゅびゅ

ウタゲ「おおお♡♡♡やべ♡♡♡イケメン男子ちゃんぽやつべ♡♡♡好きになる♡♡♡
恋に落ちるってこんなもの♡♡♡」

ウタゲ「んへー♡♡♡んひー♡♡♡さ、流石アンセルくん…♡♡♡女の子の
扱いはなんてお手の物って患者だね…♡♡♡アタシ完全に好きになったよ…♡♡♡おつ♡♡♡」



アンセル「サリアさん、腕が痛む場合は直ぐに申してくださいね。」

サリア「…ツツ♥♥♥ああ…大丈夫だ…。」

むお…

むお

ぐちゃ…

とろ…

とろ

アンセル「…正直に言えば、少々以外でした。サリアさんが性処理ケアを
受けるとは…。溜まっっているんですね。」

サリア「んぐ…♥♥♥私だつて…♥♥♥女なんだから…♥♥♥」

んぐ

ん

ん

ん

ススス…

アンセル「膣も筋肉質で良い締め具合ですね、流星ですサリアさん。

膣内に射精いたしますので、膣内射精の感覚をゆっくり感じてくださいますか？」

サリア「ぐ……♡♡♡♡♡ふうー♡♡♡♡♡おほ♡♡♡♡♡んほ♡」

ビクッ

ビュルル

と……

ビクッ

ビュルル

サリア「中に……♡♡♡無責任に出すなど……♡♡♡覚悟は、できて

おほ……♡♡♡ほお♡♡♡い、いるんだらうな……♡♡♡♡♡」

ふ

ふしかり

ふしがレ

